

# 鼓童文化財団

## 2008 年度 年次報告書



2008年3月に「ふるさとイベント大賞」(総務大臣表彰)を受賞したアース・セレブレーション

はじめに

皆様、お変わりございませんでしょうか。

2008年という年は、自由経済の本家と自称していた国から起きた金融破綻が世界に大影響を与え、百年に一度と言われる経済危機に直面することとなりました。しかし同時に消費経済が限界に達したこの不況の現実が、私達の物と生活に対する価値観を変化させていくことを改めて強く考えさせてくれました。

有り難いことに、私達が本拠をおかせていただいているこの佐渡には、まだ美しいと感じる生活の営みや自然、人の繋がりがあります。人生の経験を持ち、技術を備え、生活の知恵を持った方々から学び、受け継いでいくべきものが沢山あるのです。

また最近、特に海外の方から、鼓童の舞台のパフォーマンスだけでなく、その生活ぶりや考え方などの背景を知りたいという声を多くいただきます。これまでに、事務局長の菅野敦司がロンドン、ニューヨークなどで鼓童の公演に先立って、佐渡の風土を語り、鼓童の歴史に触れて解説をさせていただきました。国内外を問わず、多くの方々が、人の暮らしと芸術の間に深い繋がりを感じていらっしゃる事が分かります。今日の社会が失ってきてしまった人間本来のあり方を、この佐渡を例に学び、実感を伴って広く皆様と

共有していきたいと、今改めて思っております。

昨年の財団の活動も、「佐渡から」ならではの独自の活動に力を入れてまいりました。中でも私達が住まわせていただいている地元、小木三崎の活性化への取り組みについては地場産材を使った食の開発・普及の「小木三崎カフェ」開設や、地域の調査研究に基づく「小木三崎再発見マップ」の作成などの成果をあげることができました。これは2年目となる佐渡太鼓体験交流館をキーステーションとして、地域の皆様と共に力を合わせて実現した事業であり、今後も引き続き取り組んでまいります。

また、2008年度の研修所修了生のうち3名が、この島の自然と文化の中で更に研鑽を積みたいと、佐渡に残り新たな暮らしを始めました。これは地元の方々と私達にとって喜びの一歩であり、こういった若者を支援する体制作りにもさらに努力してまいりたいと思います。

昨年度に増して、私共は活発な活動に努めてまいります。今後とも、皆様のさらなるご支援とご鞭撻を重ねてお願い申し上げます。

2009年3月

財団法人 鼓童文化財団 理事長 島崎信

# 2008 年度 実施事業

(2008 年 1 月 1 日～ 2008 年 12 月 31 日)

文章中、特に明記のないものは佐渡島内の活動です。

## 1、ワークショップ、講演、シンポジウムなどの開催

太鼓は芸術的な表現媒体である前に、人と人、人と地域を結ぶコミュニケーションの手段であると私たちは考えます。鼓童文化財団では太鼓を使ったワークショップなどを積極的に開催し、演奏における技術指導よりも個々人の可能性をいかに引き出すかに重点をおいた実践研究を行なって、地域に根ざした社会活動の一環として取り組んでいきたいと思ひます。

### ■ 北米「花結」公演とワークショップツアー (KASA 主催事業)

2/26～3/18

実施都市：シアトル、ポートランド、ロサンゼルス、アラメダなど  
演奏と講師：小島千絵子、藤本容子、金城光枝  
ゲスト：渡辺薫氏

### ■ 太鼓体験塾 サンバ篇、和太鼓篇 (EC プレイベント)

6/21～29 佐渡島内巡回 のべ 200 名参加

講師：山口康子、石原泰彦 アシスタント：研修生  
ゲスト講師：佐渡在住のエンヒケ・カルロス氏 (カポエイラの指導)  
実施地区：両津、相川、赤泊、畑野、佐和田

### ■ KASA/MIX 於：鼓童文化財団研修所

北米を中心とした海外参加者対象の踊り、唄、太鼓のワークショップ

9/6～10 28 名参加

講師：小島千絵子、藤本容子、齊藤栄一

### ■ 鼓童塾 (齊藤栄一の太鼓篇) 於：鼓童文化財団研修所

9/19～23 20 名参加

講師：齊藤栄一 アシスタント：研修生

### ■ 研修生と佐渡の小中学生との交流公演

10/15 金井中学校 1 年～3 年 200 名対象

10/18 河原田小学校 全学年と父兄 100 名対象

6 月、10 月 松ヶ崎中学校交流会

### ■ 学生への授業および教育機関、地域との連携ほか

- ・大井良明 深浦小中学校「岬太鼓」、「岬組」の指導
- ・新井武志 羽茂保育園鑑賞会 6 月
- ・藤本容子 新穂社会教育レクリエーション 1 月  
羽茂保育園鑑賞会/城腰地区敬老会 6 月  
小木小学校「うたの授業」 10、11 月  
たたこ館 ヴォイス・サークル 11 月
- ・山口幹文 新潟市講演「鼓童の背景にあるもの」 9 月
- ・菅野敦司 ロンドン、ロイヤルフェスティバルホール講演  
「鼓童の舞台の背景」 1 月
- ・宮崎正美 羽茂「親子で楽しむ和太鼓体験」 1 月



太鼓体験塾：サンバ篇 (ブラジルのカポエイラを体験)



KASA/MIX ワークショップ



保育園ワークショップ



鼓童塾

・石原泰彦（補佐：研修生）  
新穂トキッ子保育園ワークショップ 10月  
両津地区保育園ワークショップ 10月



研修生野外稽古

## 2、伝統文化の再創造に関する研修および実践（研修所）

鼓童文化財団に所属する研修所では、広く内外から研修生を募集し、豊かな自然と芸能の宝庫である佐渡において、体験的学習を通して次代に伝えるべき新しい伝統の創造を目指します。研修制度は2年制で、1年目は伝統文化の基礎を研修する総合課程、2年目は鼓童の活動を通じて実践的な力を養う専門課程となります。

1、2年合わせて20名が佐渡市柿野浦の旧岩首中学校校舎で研修生活を送りました。

1年生 12名 総合課程 芸能の基本を学ぶ

2年生 8名 専門課程 舞台芸術関係の専門分野を学ぶ

2009年1月をもって1年10ヶ月の研修を修了した26期生は、草洋介、ジョーゼフ・スモール、西村信之、野崎次郎、村下正幸、内田依利、小見麻梨子、高橋菜生子の8名。それぞれの目標に向かい、学び舎を巣立ちました。

10ヶ月の総合課程を修了した1年生は、12名。飯島学、池田純、川村真悟、木下仁資、久保田潤、倉持裕二、高橋亮、角田憲彦、藤本暢之、上田恵里花、長尾奏美、渡邊みなみ。そのうち、8名が2年生に進級しました。

■ 6月に研修生活や稽古内容を詳しく掲載した、研修所の紹介パンフレット（無料）を作成しました。豊かな人材を募るため、研修生応募者だけでなく、関心をお持ちの方にも広くお配りしています。



■ 今年4月入所の2009年度研修生より、施設設備・楽器整備の充実を図るべく、研修費を次のように改訂しました。

・月額7万円

（内訳：生活費3万円、教育費4万円）

・各年次の始めに、設備教材費11万円

（内訳：施設設備費3万円、楽器整備費5万円、教材費3万円）

## 3、アクション・ライブラリーの運営

鼓童の国内外での活動記録をはじめ、佐渡で開催している国際芸術祭「アース・セレブレーション」の足跡、および伝統文化についての調査研究・資料収集の成果を、広く国内外の方々に利用していただくための図書館を将来的に運営したいと計画しています。これは関連図書・音響映像・収集資料を展示紹介してだけでなく、一般の方々がより親しみやすく相談し参加体験できる形を模索したアクション・ライブラリーとして「行動する図書館」を目指すもので、インターネットなどを通じて情報を公開していきたいと思っております。

■ 鼓童の書籍・ビデオ等約10,000冊、レコード6,000枚についての整理が終了しました。寄贈いただいたCD14,000枚を含む、新規・寄贈資料への対応をすすめています。

■ 鼓童ホームページ（日本語・英語）は月に1度ほど更新をしています。月平均約5,000件のアクセスがありました。

## 4、国際芸術祭「アース・セレブレーション（EC）」の実施

鼓童が地元の市町村とともに実行委員会を組織し、'88年より毎年開催している国際芸術祭を、今後ともその質的向上を目指して実施していきます。この芸術祭では、世界各地の民族音楽・芸能の専門家や研究者を招き、佐渡の自然の中で新しい「地球文化」の可能性を探るとともに、各地の伝統文化の紹介を通じてその振興をはかっています。海外からの参加者を積極的に働きかけて国際交流を促進し、次の世代への芸術的な基盤形成につとめます。

8/22～24に行われた本芸術祭は21回目を数えました。日系移民100周年を記念する、日本ブラジル交流年の昨年は、城山コンサートのゲストに「オロドン」を迎え、その他にも展示やワークショップなどでブラジル関連企画を集め、好評いただきました。

また、この芸術祭のエコへの新たな取り組みとして、ステンレス製リユースカップの試験的導入、また「新潟県カーボン・オフセットモデル事業」に参加しました。

※また、20回の節目にあたった2007年のアース・セレブレーションが、「第十二回ふるさとイベント大賞」（地域活性化センター主催）で、最高賞の大賞（総務大臣表彰）に選ばれ、2008年3月4日に東京で表彰を受けました。佐渡の地域資源を最大限に生かし、世界各国のアーティストと共に新たな文化を創出し、地域内外の交流を促していることが評価されたものです。

出演者（敬称略）

■ 城山コンサート

・オロドン（ブラジル・パイア州）

・鼓童

■ ワークショップ、レクチャー等

・金津流梁川獅子躍「レクチャー&デモンストレーション」

・翁長巳酉「DEEP BRASIL!

～知られざるブラジルの打楽器ワールド」

・蘭情「蘭情さんの笛工房」

・浅野太鼓楽器店「太鼓づくり」

・三宅島芸能同志会の皆さん「三宅太鼓」

・小木の皆さん「小木おけさ」

・松田祐樹「佐渡の五流の鬼太鼓」

・藤本吉利「あなたも太鼓打ちに」「鬼剣舞の基本踊り」

・藤本容子「ヴォイス・サークル」

・宮崎正美「打たにゃドン!」

・小島千絵子「千絵子流女打ちの基本」



EC 城山コンサート：オロドンと鼓童

■ 特別フリンジ等

・金津流梁川獅子躍（岩手県奥州市江刺）

・三宅島芸能同志会（東京都）

・ウインドアンサンブル佐渡

・浜河内鬼太鼓、杉野浦小獅子舞、鷲崎鬼太鼓の皆さん  
「佐渡の芸能」

・春日鬼組「鬼太鼓門付け」

・小木の皆さん「小木おけさ流し」

・ゆきあひライブ

(小島千絵子、木村俊介、博之丞、西野貴之)

・cocon



EC ワークショップ：翁長巳酉「DEEP BRASIL!」

■ 展示、見学など

・「逢いたくば ～ブラジル移民百年の肖像」展

・「トキよはばたけ! ～野生復帰への取り組み」展

・「ブラジルの打楽器」展

・木と遊ぶ研究所、山口幹文「鼓童村公開、森の案内」

・佐渡太鼓体験交流館見学+小木半島周遊ツアー

■ プレイベント「佐渡薪能三夜連続公演」

能：観世流 津村禮次郎、

狂言：和泉流 小笠原匡、太鼓：金子竜太郎

8/19 相川・春日神社、8/20 真野・大膳神社、

8/21 両津・椎崎諏訪神社の各能舞台



EC 特別フリンジ：「金津流梁川獅子躍」

5、伝統文化に関する調査研究および資料収集

人類が長い年月を経てかたちづくり、伝えてきた世界各地の様々な伝統文化（特に民族音楽・芸能・工芸）、とりわけ佐渡を中心とした調査研究を行なうと同時に、その資料収集を積極的に進めます。

■ アースファニチャー

(佐渡の杉で創る、地域循環型の生涯家具)

佐渡内での販売に加え、佐渡汽船赤泊港待合室にもベンチが設置されました。これで、佐渡汽船の両津・小木・赤泊のすべての港にアースファニチャーのベンチが導入されました。

■ 小木三崎百年プロジェクト協議会(国・農林水産省補助事業)

小木三崎の活性化事業…小木三崎カフェ、小木三崎再発見マップ作成など



EC 特別フリンジ：「佐渡の芸能」鷲崎鬼太鼓

## ■ 地域資源型ビジネス提案・成果評価事業

(新潟県・農林水産部補助事業)

新しい体験旅行のモデルプログラムの開発。「たたこ館、小木三崎チラス」「小木三崎体験手引帖」などの作成。

■ 6月に設立された『NPO 法人佐渡芸能伝承機構（理事長：松田祐樹氏）』に当財団事務局の千田倫子が参加。この団体は佐渡の芸能の振興をはかり、伝統芸能の調査・記録・保存・継承・復活を推進し、地域文化の維持、発展に貢献するもの。当財団とも密な連携をとり、芸能に関する講演会など太鼓体験交流館での催しなどを通して具体的な相互協力を行いました。



EC 展示：「トキよはばたけ！～野性復帰への取り組み」

## 6、伝統文化研究者・文化活動制作者への支援

太鼓を中心とした伝統的な音楽芸能の修得と、現代的な再創造を試みる集団「鼓童」。その鼓童に所属する研究者の調査・稽古・創作活動に対して支援を行なっています。また、文化活動の現場を支える制作者の受け入れや、関連団体への派遣なども行ない、国内外での文化交流を推進します。

■ 鼓童メンバーに対し、舞台に関連する調査を支援しました。

7月 鬼澤綾子 沖縄・琉球舞踊稽古

7月 齋藤菜月 青森・津軽手踊り稽古



「第十二回ふるさとイベント大賞」授賞式

■ 1月に佐渡で行われた「佐渡吹奏楽フェスティバル」に協賛しました。

■ 元鼓童のメンバー渡辺薫氏が、アメリカのセントルイス交響楽団に所属のご両親と結成する、ハープとバイオリン、篠笛の「トリオ・渡辺」。5月に佐渡の子供達に音楽を届けたいという思いで、南部の小中高校を訪ねて行われた演奏会『篠笛の唄』に協力しました。

■ 7月に佐渡で行われた「新潟大学管弦楽団」の第9回佐渡公演に協賛しました。

■ 鼓童の会の会員の方々をはじめ各関係者に機関誌(月刊「鼓童」を年11回、あるいは英文季刊誌「Kodo Beat」を年4回)をお送りしています。

■ 当財団は、皆様のご寄付と鼓童の会の会費で支えられています。鼓童の活動をご支援いただける企業・団体の方々に向けては、「法人会員制度」(年会費10万円)があり、この度、その特典内容を整えました。鼓童公演ご招待、チケット優先予約、ワークショップへの優先参加、オリジナル商品の割引、ホームページのリンクなどがございます。

また、個人でのご入会については、「友の会」「後援会」「賛助会」の3つの会と、英語版のサービス「Friends of Kodo」があります。それぞれにご案内を用意しておりますので、裏表紙下段記載の鼓童文化財団事務局まで、どうぞお気軽にお問い合わせください。

## 7、年次報告書および関連図書の刊行

鼓童文化財団では、1年間の活動を報告し、事業や財団施設の利用情報を提供する年次報告書を発行します。また、研究・創造活動の成果を発表する出版物も随時発行します。

■ 年次報告書を4月に発行し、鼓童の会の会員の方、鼓童文化財団に寄付を寄せてくださった方々にお届けしました。

## 9. 佐渡太鼓体験交流館の運営

佐渡太鼓体験交流館(愛称:たたこ館)は2007年4月から、当財団が指定管理者として運営にあたり、2008年5月のたたこ館皇月まつり時に、オープン以来の来館者数が1万人を突破しました。

1/1～12/28までの来館者数は、12,176人

(うち太鼓体験者3,890人、見学者4,943人)

## 8、鼓童の会の運営

鼓童文化財団は鼓童の活動に社会的な価値を見だし、共感する個人によって支援される「鼓童の会」を運営します。毎月発行される機関誌を送付して活動への参加を呼びかけ、今後の事業に対する希望を募ります。

■ 主な実施事業

○太鼓体験

修学旅行（計 63 校：新潟県内小学校）／島内学校／公民館・地域活動／会社・団体／PTA・子ども会／佐渡ツアー企画／一般その他

○そば打ち体験、菓子づくり、干しサザエづくりなど

○たたこう館まつり：弥生まつり／皐月まつり／霜月まつり

○週末連続公演：「ちんどん鼓童」12月

○展示企画：3月「佐渡のおこし型（菓子の木型）」展  
6～9月「ブラジルの打楽器展」

○施設貸出

各種シンポジウム、サークル活動、ワークショップ、イベント、結婚式会場、勉強会、茶道稽古、そば打ち体験など。



たたこう館：「佐渡のおこし型」展

■ 今後の取り組み

太鼓体験の通年受け入れ、佐渡ならではの体験開発、貸館促進、合宿誘致、大学との連携、特産品販売、飲食店営業などを開発してまいります。

「たたこう館」では、今年度も様々な事業を計画しております。佐渡に、小木にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

※ 2009年「たたこう館まつり」開催予定

皐月まつり…5月4日（月・祝）／霜月まつり…11月1日（日）

お問合せ：Tel. 0259-86-2320、Fax. 0259-86-2385 月曜休館

Email : info@sadotaiken.jp

http://www.sadotaiken.jp



たたこう館：週末連続企画「ちんどん鼓童」

## 2008 年度 決算

貸借対照表 2008年12月31日現在

(単位：円)

I 資産の部		
流動資産	現金	380,362
	預金	1,590,650
	未収金	8,109,960
	仮払金	1,224,972
	その他	3,035,486
	流動資産合計	14,341,430
固定資産	基本財産合計	100,211,931
	その他の固定資産合計	932,722
	固定資産合計	101,144,653
繰延資産	製品開発費	40,108
	繰延資産合計	40,108
	資産合計	115,526,191
II 負債の部		
流動負債	未払金	14,161,187
	預り金	37,054
	負債合計	14,198,241
III 正味財産の部		
正味財産		101,327,950
(うち基本金)		(100,211,931)
負債及び正味財産合計		115,526,191

正味財産増減計算書 2008年1月1日から12月31日まで (単位：円)

I 正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
1. 基本財産運用収入		4,688,927
2. 入会金収入		302,000
3. 会費収入		6,814,532
4. 法人会費収入		200,000
5. 事業収入		39,213,998
6. 補助金等収入		604,000
7. 寄付金収入		4,412,000
8. 雑収入		1,630,828
	経常収益計	57,866,285
(2) 経常費用		
1. 事業費		61,504,362
2. 管理費		6,127,488
3. 什器備品減価償却額		297,817
4. 車輛運搬具減価償却額		246,810
	経常費用計	68,176,477
	当期正味財産増減額	△ 10,310,192
	正味財産期首残高	114,935,502
II 正味財産期末残高		104,625,310

# 2009 年度 事業計画

1. ワークショップ、講演、セミナーなどの開催
  - (1) 太鼓体験塾(島内5回)
  - (2) 鼓童塾 太鼓篇 …1回
  - (3) 研修生と佐渡の中学生との交流公演 …3回
  - (4) 地域の学校への出前授業および交流
  - (5) KASA・北米ワークショップツアー
  - (6) 文京区提携事業
  - (7) 永六輔佐渡島内講演会
  - (8) 森林ワークショップ
2. 伝統文化の再創造に関する研修および実践(研修所)
  - (1) 総合課程(1年次):芸能、暮らしの基本を学ぶ  
4月～翌1月 約12名
  - (2) 専門課程(2年次):鼓童メンバー育成に向けて、舞台・スタッフ志望別研修 2月～翌1月 約8名
3. アクション・ライブラリーの運営
  - (1) 民俗芸能関係の収集資料の整理
  - (2) 図書・映像資料の整理
  - (3) 図書管理システムの運用
  - (4) インターネット・ホームページの運営
4. 国際芸術祭「アース・セレブレーション」の共催
  - (1) 日本オランダ交流年提携企画
  - (2) EC エコロジー企画
  - (3) 能楽公演を島内2カ所の能舞台上で展開
5. 伝統文化に関する調査研究および資料収集
  - (1) 鼓童舞台演目の現地調査研究
  - (2) 鬼太鼓調査研究
  - (3) 地域資源型ビジネス提案・成果評価事業
6. 伝統文化研究者・文化活動制作者への支援
  - (1) 鼓童メンバー研修支援
  - (2) 体験交流プログラム開発
  - (3) 小木三崎百年プロジェクト
7. 年次報告書および関連図書の刊行  
年次報告書の発行
8. 鼓童の会の運営  
月刊機関誌「鼓童」、季刊英字機関誌「Kodo Beat」の発送、名簿の管理、会員募集
9. アースファニチャー事業  
アースファニチャー佐渡の企画販売
10. 佐渡太鼓体験交流館の運営  
ワークショップ、伝統料理教室、ミニコンサート、講演等と施設借用
11. その他  
広報活動

## 財団法人 鼓童文化財団 役員・評議員 (2009年4月1日現在、50音順)

理事長	島崎 信	武蔵野美術大学名誉教授
副理事長	山口幹文	鼓童演出顧問
常務理事	青木孝夫	鼓童代表
理事	浅野昭利	財団法人浅野太鼓文化研究所理事長
	高野宏一郎	佐渡市長
	森 千二	音楽プロデューサー
監事	荒井久夫	税理士
	佐藤一行	鼓童会計顧問
評議員	五十嵐實	税理士、日本自然環境専門学校長
	伊藤文吉	財団法人北方文化博物館館長
	永 六輔	作家
	佐々木 愛	劇団文化座代表、女優
	関原 剛	協同組合ウッドワーク顧問
	等々力好泰	新潟トヨタ自動車株式会社社長
	富田 勲	作曲家
	中川忠夫	元小木町長
	姫田忠義	民族文化映像研究所所長
	クリストファー・遥盟・ブレイズデル	尺八演奏家、国際文化会館芸術プログラムアドバイザー
	ロビン・ベリントン	元駐日アメリカ大使館 文化参事官
	本間雅彦	元佐渡・畑野町史編纂委員長
	マーク・ロス	ダイオラマ文化センター ディレクター
	武者利光	東京工業大学名誉教授、ゆらぎ研究所、脳機能研究所所長

## 2008 年度 寄付者一覧

2008 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに寄付をくださった方々は以下の通りです。(敬称略。1 口 1,000 円)

2000 口 オールトヨタモーターショー in 新潟

1000 口 堀口智顕

100 口 (有) オフセンター、(有) サンライズジャパン  
浅野恭央

50 口 五十嵐実、北村幸治、KASA/MIX スタッフ

30 口 キハラ (株)

20 口 伊藤富貴子、伊庭文子、武井京子

12 口 高畑ヨシ子

10 口 五十嵐智子、石垣清美、伊藤達彦、植松功、大倉喜久江、奥川里美、小倉睦美、柏原誠、片田秀子、加納よう子、幸田国際特許事務所、佐藤惇、篠田正浩、清九郎、平博、中島一、土師慶子、橋寺一也、春本博章、武者利光、望月さなえ、望月理裕、山岸稔秋、山田宣子

※ 年次報告書への名前掲載を希望しない方の寄付金額、および 10 口以下の方の寄付金額の小計 820,000 円  
上記の寄付総合計 4,612,000 円

※ 2008 年度 法人会員

(有) オフセンター、(有) サンライズジャパン

たくさんのご支援をありがとうございました。



2008 年度研修生

## 財団へのご支援をお願いいたします。

財団法人 鼓童文化財団は、趣旨に賛同くださる皆様のご支援により活動を進めております。

### [寄付]

■ 寄付は 1 口 1,000 円単位で随時受け付け、毎年 4 月に発行する年次報告書をお送りします。年に 10 口以上お申し込みいただいた方には、年次報告書にご希望によりお名前と金額を掲載させていただきます。

■ ご送金は郵便局備え付けの郵便振替用紙に、お名前、ご住所をお書き添えの上、「00690 - 9 - 25829 (財) 鼓童文化財団」宛にお願いします。鼓童の会にすでにお入りの方は会員番号を、また年次報告書に名前と金額の掲載を希望しない場合は、その旨を通信欄にご記入下さい。

団体名と個人名を併記されている場合は個人名での掲載とさせていただきます。また、財団への寄付は鼓童の会の会費とは異なりますのでご確認下さい。

### [後援会と、法人会員制度]

■ 鼓童グループは、公演企画制作や商品開発、販売業務を行う (株) 北前船と、著作権管理を行う (有) 音大工、そして (財) 鼓童文化財団という 3 つの法人で構成されています。研修所の運営や伝統文化の調査研究などを行う財団の事業は、鼓童の活動の根幹を担うものです。

■ 鼓童文化財団は、皆様のご寄付と鼓童の会の会費で支えられています。鼓童の会には友の会・後援会・賛助会の 3 種類がありますが、財団の活動を支援する気持ちを強くお持ちの方は「後援会」(入会金千円、年会費 1 万円)へご入会いただければ幸いです。すでに、友の会や賛助会にお入りの方の後援会への切り替えも随時受付いたしております。

■ また、企業・団体の皆様に向けて「法人会員制度」(入会金無料、年会費 10 万円)も設けております。詳しくは下記事務局までお気軽にお尋ね下さい。

財団法人 鼓童文化財団 2008 年度 年次報告書 2009 年 4 月 10 日発行  
発行責任者…島崎信、編集…菅野敦司、千田倫子  
写真…宮川舞子、NAO HOROTA、夢留見彩、田中文太郎、鼓童

財団法人 鼓童文化財団：

〒952-0611 新潟県佐渡市小木金田新田 148-1 鼓童村

TEL. 0259-81-4100 FAX. 0259-86-3631

E-mail. zaidan@kodo.or.jp

<http://www.kodo.or.jp>